4・ひばりがひいた

豊丘村豊丘南小学校四年　C・O

雨がものすごい勢でふり出した。家の前にひばりがひいた（地われがした）。

「おとうちゃ、ここにひばりがひいたに――。」

くわおき場から牛小屋の前にひばりがひいている。おとうちゃと、おかあちゃは、家の前、おばあちゃと、おじいちゃは、くわおき場から牛小屋の前まで、足でひばり（地われ）の所をふみ、むろから、砂をもって来て、ひばりの中へ入れ、ふんでは入れ、ふんでは入れる。それをいくかいもくりかえしくりかえし、している。そのうちに、みつばちのすの前にひばりがして、みつばちのすが、ずる、ずるとおちて行く。おとうちゃは、

「やーい、だれかこい。」とよんだ。

おかあちゃがとんできていっしょに運んだ。わたしと　H　は、ただ見て、ふるえているだけだ。電気はつかない。だから外にいるよりほかしかたがない。畑のこんにゃくは、見ているうちに、バタバタとこけていく（倒れていく）。池もだんだんうずまってしまう。わたしは、何かしたくてもすることがなくただ二人で、ぼんやりと立って雨のふるのを見ているだけだ。その時、うらの山がくずれた。ドドド、ガターン、バリバリッとおふろの所（浴場）におちた。

「あ！おふろが。」とわたしはさけんだ。

「だいじょうぶだ。」とおじいちゃがいった。

わたしはあまり悲しくてなみだが出て来た。夜になった。家にはいってろうそくをつけた。天じょうから雨がポトン、ポトンとおちだした。みんな昼間あったことを話してねた。うらの山がくずれてきたらどうしようと、心配で心配で、しかたがなかった。何時間たったかしらないが、ドッドッドッドー、ものすごい音をたててどこかがくずれた。家の前のはんばがくずれたと思い、おかあちゃと外に出て見たら、はんばではなかったのでほっとした。おとうちゃは、カッパをきて、見に行った。あとの人は、家の中にはいり、またねることにした。

H だけは、ぐっすりねていた。

「いいこと、何も知らなしねておるで。」とわたしは思った。

朝になった。わたしは、さっそくふろを見に行った。その日は、おふろ場の砂をはこび出した。わたしは、そうゆうことをすることがすきなので、手つだった。みんな砂をどかして見ると、おふろはだいじょうぶだったが、たらいがめちゃめちゃにこわれていた。

（三十六年）